

キャラクター名
成瀬 真姫奈

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
	パロール					
オプション			年齢	15	性別	女
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	32	%
出自	姉妹	経験	トラウマ	邂逅	玉野 椿	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	3	1	0	1		5	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	3		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
応急手当キット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	消費	消費
[50] 究極のゼロ/アブリュート・ゼロ	P	N		
成瀬 真由理	P 慈愛	N 疎外感		
玉野 椿	P 尊敬	N 恥辱		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	1	2d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
インフェルノ	1	4	メジャー	-	単体	対決	100%	
効果: ダメージを与えた対象は行動済みに、1回/1S								
時間凍結	1	5	イニシア	至近	自身	自動	80%	
効果: イニシアで追加のメイン、HP-20、1回/1S								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果: 判定強制失敗、1回/1S								
プラズマカノン	3	4	メジャー	視界	単体	対決	100%	
効果: 攻撃力+Lv×5								
焦熱の弾丸	1	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力+ (Lv+2)								
コンセントレイト:サラマンダー	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

とある支部に所属する一介のUGNチルドレン。学業部活友人関係と粗方のことは器用にこなす女子高校生で、多少勝ち気で気が強い点に目をつぶれば素直な性格が透けてくる。オーヴァードとしてUGNに所属しているおり、彼女の特異にして唯一の必殺技である"機械仕掛けの憂鬱"は、対象を問答無用で無力化するという凶悪な効果を持ち合わせているため、一時期は本部直属チルドレンとして声が上がったくらいだ。しかし、瞬き一つの間にすべてが終わる一点物の職人技であるそれ以外で任務に協力することのない彼女は、その性格も相まって「観測者」や「お客様」との揶揄が彼女の耳に届くまでになった。そこに塩を塗るように後述の過去の内容から距離を取っている姉の活躍が耳に入るようになり、一時期は精神が著しく不安定になった。しかしながら、その彼女を支えてくれたのもまたUGNの人々であり、時に恩師である玉野椿には頭が上がらない。心機一転ということで今回の支部に配属になったわけだが…果たして。

彼女がオーヴァードに目覚めたのは、彼女の姉である成瀬真由理に殺されたことが発端にある。小学生のころ、勝気な性格が災いして上級生の男子数名に食って掛かったことがあり、家族のことを笑われた上に何度も殴られた。そこをたまたま訪れた姉と一瞬目が合い…というところで彼女の記憶はここで途切れ、次に目を覚ましたのはとあるUGNの一室であった。そこで聞かされたこの世界の裏側と、自分が持つ才覚について。そんなことはどうでもいい、私は、姉は、どうなったのだと何度も問いただしたところ聞かされたのは自分を含めた七人を姉が殺したという真実であった。幸か不幸かオーヴァードとしての才覚に恵まれた彼女は成長につれて、自然と「あの場面を目にした姉が怒りに飲み込まれ、オーヴァードとしての力を暴走させてしまった」ということを理解するようになった。次に会うときはそんな過去を気にしないこと、むしろ自分に手を差し伸べようとしてくれたことをありがたく思っていることを伝えようと思っていたのだが、姉から帰ってきたのは強い拒絶だけだった。うじうじと悔やみ、勝手に気を遣う彼女の性格が癪に障った彼女は、ああそうですかといわんばかりにその拒絶に了承し、こちらからも距離をとった。しかし本心はいまだ変わらず、また姉妹揃って笑いあいたい、それが彼女の願いである。